

# 12月のアルミ&銅・銅合金スクラップ市況及び2010年1月の見通し



▲橋本金属(アルミ)の橋本健一郎氏

年明け以降の国際非鉄市場は、ドル安、米の超低金利政策継続見通し、世界経済の回復期待、中国での50年ぶりの豪雪などにより堅調に推移。銅は年末年始、チリにあるエクストラクタのアルトノルテ製錬所、コデルコのチュキカマタ鉱山でのストライキを要因に上伸。この2大ストが終結した後も前出の要因で続伸している。アルミも2,300ドル台へ到達するなどの続伸基調で推移している。ただ、7日に発表された中国人民銀行の融資抑制策が先の相場にマイナス圧力を加える可能性がある。以下は、今後の非鉄市況に対する橋本金属&アルミの橋本健一郎専務の寄稿レポートに若干修正を加えた。

銀行の融資抑制策が先の相場にマイナス圧力を加える可能性がある。以下は、今後の非鉄市況に対する橋本金属&アルミの橋本健一郎専務の寄稿レポートに若干修正を加えた。

## ■アルミは続伸と予測

12月前半の海外市場はドバイショックの不安が残るも、アブダビによる資金援助を受け不安が後退、11月の米雇用統計の改善や中国鉱工業生産指数を好感し、強気の幕開けとなった。後半は米指標からの金利早期引き上げ懸念をFOMC声明で否定したことから商品市場に過剰流動資金が流入し、LMEアルミも2,250ドル近辺まで上昇。国内のアルミスクラップは各合金メーカー年末要因を抱えながら年初のスクラップ収集合戦を危惧し、ついに10円程度の買値引き上げに踏み切った。

貿易関連指標(財務省貿易統計)では、輸出面でアルミ新地金が前月比43%減の77トン、アルミ2次合金が同1.7%減の1,972トン、スクラップは同10.6%増の8,918トンとなった。輸入面ではアルミ新地金が同13%減の12万1,540トン、2次合金が同6.2%増の7万3,955トン、スクラップは同21.6%減の378トンであった。LME価格の上昇と合金メーカーの需要先行き懸念の購入抑制から輸出増・輸入減のシナリオとなった。しかし、自動車生産台数が前月比4.7%増の85万9,677台となり、板・押出材・新設住宅着工数などが3ヵ月連

続で前月比プラスとなっていることから回復感が顕著に出てきている。

LME価格の1月の見通しは、米国の金融緩和プログラムの引き締めが予定通り開始されれば、下落リスクはあるが2月の旧正月明けの中国への期待から2,500ドル台を予測。価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては1月初旬に10~20円の大暴落となった。ただ国内原料は発生不足となっており、上海シグマ産D12S、ロシア産AK5M2など輸入再生塊の手当ても困難であることから原料争奪戦が勃発し、1月後半にはさらに5円程上昇すると予測する。

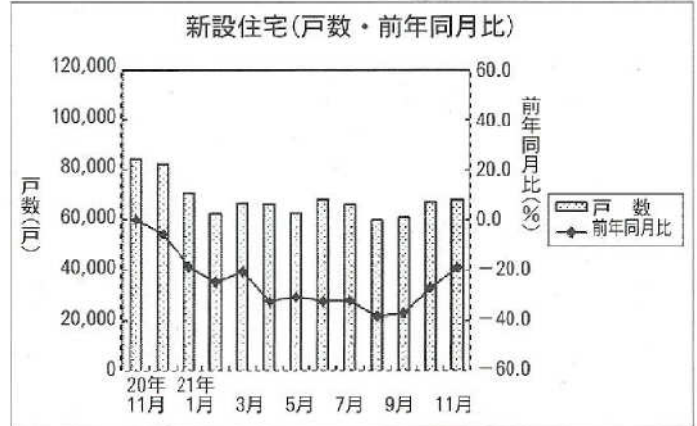
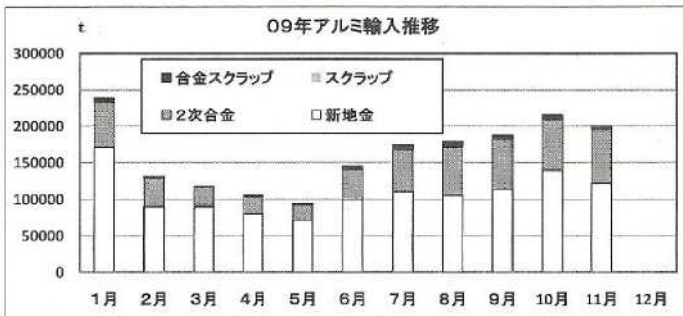
## ■銅も強含み

12月前半はアルミと同様に明るい幕開けとなった。後半はコデルコ(チリ)のスト突入などの好材料からLME銅、国内銅建値ともに年初来高値を更新。LME銅は7,300ドルまで上昇し、国内銅建値は64万から68万へ急騰、銅スクラップも2~3万円ほど上昇した。

年明けは周知のように建値は一気に73万円、さらに75万円まで上伸している。今後の見通しとしては、2月の旧正月明けの中国の景気対策期待及び民主党の住宅エコポイント政策などからテクニカル、需要面ともに堅調との予測から更なる上昇を予測する。

## ~海外アルミスクラップ市況~

足許の海外アルミスクラップ市況は、韓国・中国のアルミ2次合金メーカーの買値がテイントターバーで75セント、テンスで76セントとなっている。米国のアルミスクラップは品質・ロットの容量などの面で優れているとされ、現在でも引き合いが強いとのこと。日本のアルミスクラップに対する買い意欲はさほど強くない模様である。(塚田)



廃バッテリーから高純度の電気鉛を作る

**日本海精錬株式会社**

<http://www.sjr.co.jp/>

廃バッテリー高価買取

〒625-0133  
京都府舞鶴市宇平小字小浦1595  
TEL (0773) 68-0326 FAX (0773) 68-0206  
E-mail: info@sjr.co.jp